

わたしのお母さんへ

わたしはいつも夜にお母さん、ありがとうと思う。
お母さんといると幸せな気持ちになる。

だってお母さんの子どもだったことがとこでもよかったから。
それにお母さんのいいこと、ありがとうと思うことがたくさんあるんだよ。一つ一つエピソードがあるんだ。

まずは成長のありがとう。

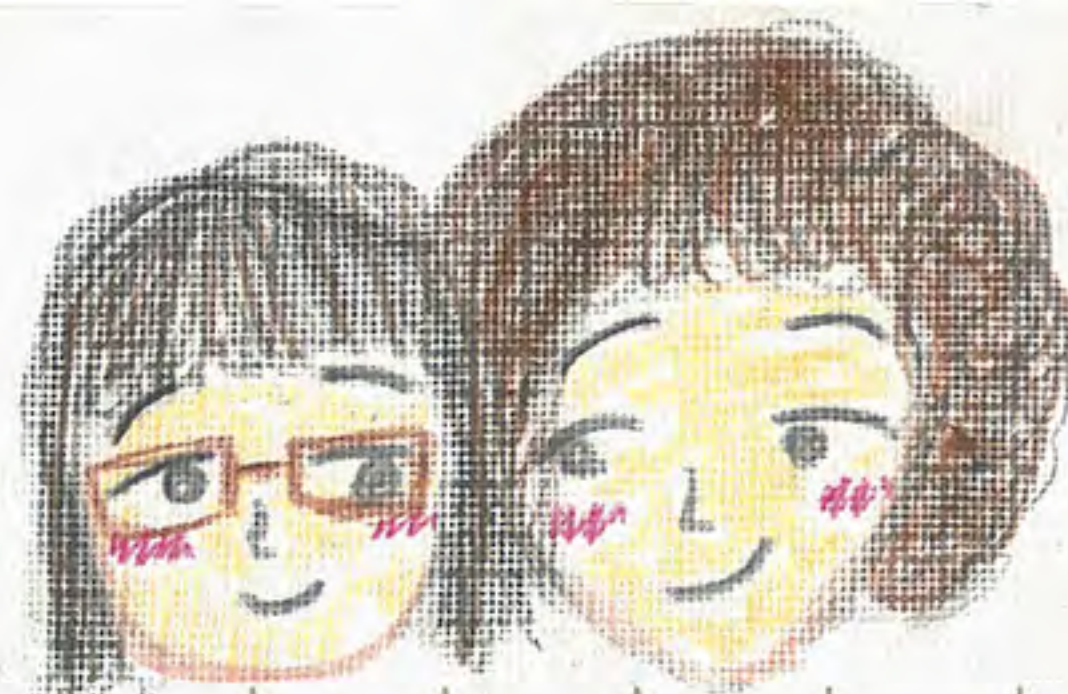
ふりかえるとどんどん心が強くなっている。

わたしのスタートは人見しり。で成長していくうちにけい験をつみかさねていて人見しりがあきてきた。わたしはえのとぎ初めてあきほいんだなど気がついた。お母さんとよくしゃべるようになってあげたれとでもしゃべりやすくなるとニろがゴール。

それにいやなこと全部なくさめてくれる。わたしのみがただかうありがとう。

それから心のありがとう。

わたしはお母さんと気が合う。少し話しただけでずいぶん長い話





にっんしんする。なぜかというとなわたしは家ではおしなアツクさん。
「〇〇だったんよ。」から「〇〇」といえば。というふうにしりとり
のようにつなげてゆく。てことはお母さんとわたしのじがつな
がってるってこと？

「つなやみがある。しゃべりすぎつってなやむ。でもそこでお母
さんが相手のじを気にするところがええな。」

とわたしのほめことはきすぐ言ってくれる。だから気にしない。
わたしのささえになっけてくれてありがとう。

さいごにわたしだけのありがとう。

わたしはお母さんがいないとダメなタイプ。

さみしいからねるときはお母さんの方向をむいてねる。
ということはおわたしよりさきにねたらダメってことになる。
ゴメンネ。

お母さんおとしよりになってもずっとそばにいる。けっこんし
ないでせんげんした。まだまだあるけれど長くなるのでおわるね。

お母さんの細まり